

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370203006		
法人名	合同会社 総合介護サービス		
事業所名	グループホーム さくらそう茶屋町		
所在地	岡山県倉敷市茶屋町早沖1575-16		
自己評価作成日	平成27年6月28日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・のんびりとした雰囲気の中で個々ひあつた支援が行えるよう努めています</li> <li>・ご利用者の残存機能維持のため生活リハビリを行っています</li> <li>・ユニットの隔たりをなくしご利用者が気軽に交流できなじみの関係が気付けるように努めています。</li> <li>・委員会を発足しご利用者様で生活の場として安心して過ごせるように努めています。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;Jigvovocd=3370203006-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;Jigvovocd=3370203006-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>さくらそう茶屋町が特にこだわっているのは、利用者の機能向上の為、生活リハビリに力を入れていることである。日中、テレビを見ながら足こぎペダルでリハビリに努めている。紙パンツから布パンツへの移行はもちろん、車椅子の利用者は、シルバーカーを使い歩けるようになった。法人グループの壁画大会では、ちぎり絵の大作を全員で協力して作成し、優勝する。「太郎茶屋鎌倉」で祝賀会を行い、各々好きなメニューでお祝いをした。次回行われる壁画大会に向け、新たな作品を作成中である。新しく入社した職員が大半を占めるが、企業理念である「笑顔いっぱい施設をつくります」を目標に、毎日楽しく笑いの絶えない環境作りを職員全員で心掛けている。</p>
---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年7月15日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内及びホール内に掲示している。又朝の申し送りの際にスタッフ一同で唱和している	理念に謳われる「笑顔いっぱい施設」を目指し、日々介護に努めている。管理者は笑顔と一緒に「ありがとう」の感謝の言葉を添えることで、さらに笑顔が増すと考え、奮闘している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会からの回覧板が届くようになったり地域のイベントに参加する機会が持てるようになった。又散歩に出かけた際近所の方とのコミュニケーションをとることが出来ている	4月から回覧板が届くようになり、地域の情報を得る機会が増えた。子供会より廃品回収の依頼があれば、職員に新聞紙を持参してもらう。近隣を散歩中に、地元の方と話し込んだり、花をもらったり等交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や施設のイベントを通じて理解して頂けるよう発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の開催を行い、事業所からの情報発信や各方面からの意見を伺い、サービス向上に活かしている	子供会の会長が参加しているので、廃品回収の協力依頼を受けたり、公民館で実施される狂言に招待されたり等、協力関係を築いている。運営推進会議では、2ヶ月間の施設の状況を細かく知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの方や市職員の参加をお願いし情報交換を行っている。又不明な点などがあれば相談する等を行っている	地域包括センターには、「さくらそう茶屋町通信」を持って訪問したり、運営推進会議ではサービスの実践内容を報告し、相談等に応じてもらえる協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束を行っている利用者はいない。玄関の施錠もスタッフの動きによってはあるが解放している	帰宅願望の強い利用者が外出した時は、後から着いて行き、一緒に事業所に戻り、一服してから再度散歩に行ったり、買い物に出掛け、気分転換を図っている。以前はつなぎ服を使用していたが、現在は使っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月開催している勉強会にて学ぶ機会を持つようにしているが、全体会議の中でも学習できるように議題に挙げて実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で権利擁護の勉強会を行う予定もあり利用者に必要と思われる時は関係者との相談を行うようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には家族に説明を行い不明な点や問い合わせがいつでもできる体制があることを伝えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された際又電話等があった際に意見や要望等を聞いている。又意見箱を設置している。それを職員間で共有できるように申し送りやミーティングにより徹底している	2年前迄は細かな要望を言ってくれる家族が居て、出た意見は職員間で共有し対応していた。現在はほとんどの家族から「いつもありがとう」と感謝の言葉しか聞かない。利用者からの要望で、竹を器にソーメンを食した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議、全体会議を行っている。又管理者はスタッフの提案や意見をくみ上げるように努め反映できるように努力している	新しく採用した職員から出た提案を、全員で話し合い、皆が同意すれば、徐々に運営に反映させている。さらに、他施設合同の内部研修で学んだ知識を皆と共有し、実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設の責任者、管理者、職員と話をする場を設け、各職員の状況把握し問題解決に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回他施設とお合同での内部研修と出来る限り外部への研修機会を設けている。全員が参加できていないので促していく。今後も随時、新人研修、職員研修を行っていく予定です		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を行い他事業所の運営状況やケアの方法を指導していただいている。今後同業者との交流が作れるよう改善していきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当所は不安なことが多いためコミュニケーションをとる機会を多く持ち不安や要望等を聞きケアに反映している。信頼関係の構築を目指し本人の要望や不安などに対して聞き入れ 記録 分析等を行い対策に取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接の際家族との話し合いを行い要望等を聞き安心して利用して頂けるよう関係づくりに努めている。又入居後も様子を伝える等を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を見ながら対応に努めている。管理者が中心となって、相談にのるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと利用者が共に生活する場ということを念頭に置き、家事動作等一緒に行うなど、可能な限り生活での役割を担ってもらい「ありがとう」が行きかう生活に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の新聞を発行し、日々の生活について報告を行ったり利用者の方の日常生活の写真を貼ったはがきに職員と利用者のコメントを入れ送付するようにしている。又判断に困ることは家族に相談をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会をして頂いたり、写真を部屋に置いたり等し、大切な人を忘れないよう日々の声掛けの中に取り入れている	毎月の請求書送付時に、「さくらそう茶屋町通信」、利用者の写真と自ら書いた便りに職員のコメントを添えた手紙を同送し、利用者の状況を伝えている。家族から入所を聞き、近所の方や元同僚が遊びに来てくれている。	今後利用者の思い出の場所巡りをしたいと考えている。実現が楽しみである。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が円滑にいくようスタッフが仲介に入るように努めている。利用者の状況により個別対応を行うこともある。皆がゆっくり過ごせる空間を現在ホールに準備中です		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には定期的に見舞いに行くようになっている。家族からの相談にも随時対応を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、行動により利用者様の思いをくみ取り本人の希望や思いにできる限り応えるようにしている。日々の記録や申し送りにより情報収集しユニット会議により話し合い周知徹底するようにする	出来る限り利用者と会話する時間を設け、要望の把握に努めている。特に入浴時は利用者とは対一になる絶好の機会と捉え、昔話をしながら思いを汲んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査表や利用者様、御家族様等の会話の中で生活歴の把握に努めている。聞いた情報を書類や申し送りノートに書きこみ、カンファレンス等でスタッフ全員で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人に目を向け状態把握に努め変化があればスタッフが共有できるように記録、申し送りノートを活用している。ADL低下予防に努めるためスタッフ間で話し合いを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族様からの要望を聞いている。またカンファレンスを行いモニタリング 課題目標やサービス内容を決めている	月一回のミーティング時に、カンファレンスを行い、半年から一年の期間で、介護計画を見直している。個人記録にケアプランの内容を記入して、職員全員に周知し、支援の都度口頭でモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝、朝礼にて状態報告や日々の生活を記録し、申し送りノートに記入し情報を共有している。又それを実践や介護計画に反映するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	より良い生活をめざし、ユニット会議等で必要な福祉用具や医療・看護又はボランティア等を検討し、その人に合った環境を提供できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や散歩等出掛けることにより心身のケア・機能向上に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関により月2回の往診を基本に体調の変化があれば早急に報告を行い、また緊急時にはご家族と一緒に受診している。	医療連携の看護師が、全利用者に対して、医療面から適切な指導や援助があり、主治医との連絡調整を行ってくれるので安心に繋がっている。他科受診時はかかりつけ医に確認し、支持を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に報告し早期発見・早期対応が出来るよう密に連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に面会に行き 担当医・看護師から情報を得、退院してからのケアが行えるよう医療機関との連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の当事業所の方針を説明している。終末期になられた方に対してはご家族の希望を聞き、納得した終末期が迎えられるよう主治医との連携を大切にしている	看取りは家族の希望を優先したいとの思いから、家族が事業所での終末期を望めば、最善を尽くしたいと考えている。三カ所ある協力機関の看取りに関する考えが違う為、個別に対応していく予定。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については内部研修を行ったり、マニュアルを基本に各自が適切な対応ができるようユニット会議などで伝達している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の避難訓練を実施し 避難経路方法について周知徹底している。	前回消防署が参加した避難訓練に時間がかかった為、再度同じ設定で訓練を行い、無事に終了した。運営推進会議時に、災害時の対応を尋ねたら、茶屋町小学校が避難場所、エレベーターを増設した事を教えてもらった。	消防署からも夜間想定避難訓練を実施した方が良いと言われているので、是非実現して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けを行い、入居者様の目標に合わせた姿勢、また傾聴できる体制を整えるよう常に心掛けている	管理者は常に礼儀を忘れないよう職員に指導している。利用者から○○ちゃんと呼んで欲しいと言われても、聞く人が嫌な気持ちになる可能性もあるので、さん付けで統一している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様と関わり、会話する機会を多く設けている。家事動作や手作業等については、無理強いせず本人の意向を聞きながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースにあったケアを行っている。又職員や利用者様の提案で外出支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう家族に相談したりスタッフ間で相談をしている。必要に応じて新しい服を購入している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回手作り料理の日を決めメニューを利用者様と決めたり一緒に作ったりしている。食事をする際は人間関係等も考慮して席順を決めている	手作りの日には、うどんを生地から作ったり、餃子を皆で包みホットプレートで焼いたり等、役割分担を決め、一緒に調理を楽しんでいる。配食の日も、色彩が寂しい時には常備しているトマトやきゅうりで彩を添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは計算された物が届くようになってきている。毎食の摂取量と水分量を把握している。水分補給を細目に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様に声掛けを行い、なるべく自力にて口腔ケアをしてもらっている。自力での口腔ケアが難しい方は介助行う。嚥下訓練も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し排泄パターンの把握に努めている。定時誘導ではなく各人の様子を見ながら対応している。又オシメから紙パンツ、紙パンツから布パンツへの移行にも取り組んでいる	排泄パターンを把握し、個別の排泄誘導を心掛けることで失敗が無くなれば、布パンツに変更している。現在二名の利用者が、紙パンツから布パンツに移行した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を多く取って頂く、ヨーグルトを提供する等の工夫をしている。体操や散歩等の運動を行い、出来るだけ自然排便がみられるように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回の入浴機会を設けている。入浴時間も午前・午後にとらわれず各々の状態を見ながら支援している	基本は週3回の入浴支援だが、毎日でも利用者の希望に対応している。二階は浴室が二箇所あり、部屋からの距離が遠いと拒否をされる場合があるので、居室に近い風呂に入ってもらっている。浮腫の治療の為に、足浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々のタイミングで休息を取ってもらっている。夜間は睡眠がとれるよう、静かで快適な空間を提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の疾患や既往歴を把握し、何の薬を服用しているか理解し服用後の変化がないかの確認を行っている。又服薬確認や誤薬がないよう職員間で薬の確認も徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことができるように個別の対応ができるようにしている。毎月イベントを企画して、楽しみ事の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の外出支援は必ず行っている。	気候が良い日は、日勤者が出勤すると、近隣へ散歩に出掛けている。加えて、職員の畑にたまねぎの収穫に行ったり、壁画大会で優勝したお祝いに、食事に出掛けた。近所のスーパーに利用者連れ、材料が書かれた紙を片手に、自ら食材を選びレジで会計もする。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援によりお金を使う機会を作っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状、又毎月はがきにコメントを書いて頂き職員のコメントを添え毎月送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度調整に努めている。季節に応じた貼り絵を入居者様と共に取り組み、季節を感じやすい空間にしている	仲の良い者同士がゆっくり話せるソファを購入し、皆が寛げる空間を作成中である。玄関や二階のベランダにテーブルを並べ、お茶や食事を楽しんでいる。リハビリ器具を置き、身体機能の維持と回復に日々努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き馴染みの方との会話が出来る 又同じ時間が共有できるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で使用していた物を持参してもらい、利用者様から訴えがあった際は家族に連絡し持参していただくようにしている。掃除もスタッフと一緒にすることにより使いやすい部屋となるよう工夫している	毎朝利用者と一緒に、掃除機とモップをかけ、清潔を心がけている。シクラメンの鉢植えや家族が手作りした観葉植物を置き、彩を添えている。七夕には、各居室に笹と短冊を飾り、季節感を味わった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ることを把握しなるべく利用者様に「役割」や「やりがい」を持って頂けるようにごはんの盛り付け等の支援をしています		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203006		
法人名	合同会社 総合介護サービス		
事業所名	グループホーム さくらそう茶屋町		
所在地	岡山県倉敷市茶屋町早沖1575-16		
自己評価作成日	平成27年6月28日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・のんびりとした雰囲気の中で個々ひあつた支援が行えるよう努めています</li> <li>・ご利用者の残存機能維持のため生活リハビリを行っています</li> <li>・ユニットの隔たりをなくしご利用者が気軽に交流できなじみの関係が気付けるように努めています。</li> <li>・委員会を発足しご利用者様で生活の場として安心して過ごせるように努めています。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=3370203006-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=3370203006-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年7月15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内及びホール内に掲示している。又朝の申し送りの際にスタッフ一同で唱和している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会からの回覧板が届くようになったり地域のイベントに参加する機会が持てるようになった。又散歩に出かけた際近所の方とのコミュニケーションをとることが出来ている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や施設のイベントを通じて理解して頂けるよう発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の開催を行い、事業所からの情報発信や各方面からの意見を伺い、サービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの方や市職員の参加をお願いし情報交換を行っている。又不明な点などがあれば相談する等を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束を行っている利用者はいない。玄関の施錠もスタッフの動きによってはあるが解放している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月開催している勉強会にて学ぶ機会を持つようにしているが、全体会議の中でも学習できるように議題に挙げて実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で権利擁護の勉強会を行う予定もあり利用者に必要と思われる時は関係者との相談を行うようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には家族に説明を行い不明な点や問い合わせがいつでもできる体制があることを伝えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された際又電話等があった際に意見や要望等を聞いている。又意見箱を設置している。それを職員間で共有できるように申し送りやミーティングにより徹底している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議、全体会議を行っている。又管理者はスタッフの提案や意見をくみ上げるように努め反映できるように努力している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設の責任者、管理者、職員と話をする場を設け、各職員の状況把握し問題解決に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回他施設とお合同での内部研修と出来る限り外部への研修機会を設けている。全員が参加できていないので促していく。今後も随時、新人研修、職員研修を行っていく予定です		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を行い他事業所の運営状況やケアの方法を指導していただいている。今後同業者との交流が作れるよう改善していきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当所は不安なことが多いためコミュニケーションをとる機会を多く持ち不安や要望等を聞きケアに反映している。信頼関係の構築を目指し本人の要望や不安などに対して聞き入れ 記録 分析等を行い対策に取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接の際家族との話し合いを行い要望等を聞き安心して利用して頂けるよう関係作りに努めている。又入居後も様子を伝える等を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を見ながら対応に努めている。管理者が中心となって、相談にのるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと利用者が共に生活する場ということを念頭に置き、家事動作等一緒に行うなど、可能な限り生活での役割を担ってもらい「ありがとう」が行きかう生活に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の新聞を発行し、日々の生活について報告を行ったり利用者の方の日常生活の写真を貼ったはがきに職員と利用者のコメントを入れ送付するようにしている。又判断に困ることは家族に相談をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会をして頂いたり、写真を部屋に置いたり等し、大切な人を忘れないよう日々の声掛けの中に取り入れている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が円滑にいくようスタッフが仲介に入るように努めている。利用者の状況により個別対応を行うこともある。皆がゆっくり過ごせる空間を現在ホールに準備中です		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には定期的に見舞いに行くようになっている。家族からの相談にも随時対応を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、行動により利用者様の思いをくみ取り本人の希望や思いにできる限り応えるようにしている。日々の記録や申し送りにより情報収集しユニット会議により話し合い周知徹底するようにする		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査表や利用者様、御家族様等の会話の中で生活歴の把握に努めている。聞いた情報を書類や申し送りノートに書きこみ、カンファレンス等でスタッフ全員で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人に目を向け状態把握に努め変化があればスタッフが共有できるように記録、申し送りノートを活用している。ADL低下予防に努めるためスタッフ間で話し合いを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族様からの要望を聞いている。またカンファレンスを行いモニタリング 課題目標やサービス内容を決めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝、朝礼にて状態報告や日々の生活を記録し、申し送りノートに記入し情報を共有している。又それを実践や介護計画に反映するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	より良い生活をめざし、ユニット会議等で必要な福祉用具や医療・看護又はボランティア等を検討し、その人に合った環境を提供できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や散歩等出掛けることにより心身のケア・機能向上に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関により月2回の往診を基本に体調の変化があれば早急に報告を行い、また緊急時にはご家族と一緒に受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に報告し早期発見・早期対応が出来るよう密に連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に面会に行き 担当医・看護師から情報を得、退院してからのケアが行えるよう医療機関との連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の当事業所の方針を説明している。終末期になられた方に対してはご家族の希望を聞き、納得した終末期が迎えられよう主治医との連携を大切にしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については内部研修を行ったり、マニュアルを基本に各自が適切な対応ができるようユニット会議などで伝達している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の避難訓練を実施し 避難経路方法について周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けを行い、入居者様の目標に合わせた姿勢、また傾聴できる体制を整えるよう常に心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様と関わり、会話する機会を多く設けている。家事動作や手作業等については、無理強いせず本人の意向を聞きながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースにあったケアを行っている。又職員や利用者様の提案で外出支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう家族に相談したりスタッフ間で相談をしている。必要に応じて新しい服を購入している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回手作り料理の日を決めメニューを利用者様と決めたり一緒に作ったりしている。食事をする際は人間関係等も考慮して席順を決めている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは計算された物が届くようになってきている。毎食の摂取量と水分量を把握している。水分補給を細目に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様に声掛けを行い、なるべく自力にて口腔ケアをしてもらっている。自力での口腔ケアが難しい方は介助行う。嚥下訓練も行っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し排泄パターンの把握に努めている。 定時誘導ではなく各人の様子を見ながら対応している。又オシメから紙パンツ、紙パンツから布パンツへの移行にも取り組んでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を多く取って頂く、ヨーグルトを提供する等の工夫をしている。体操や散歩等の運動を行い、出来るだけ自然排便がみられるように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回の入浴機会を設けている。入浴時間も午前・午後にとられず各々の状態を見ながら支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々のタイミングで休息を取ってもらっている。夜間は睡眠がとれるよう、静かで快適な空間を提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の疾患や既往歴を把握し、何の薬を服用しているか理解し服用後の変化がないかの確認を行っている。又服薬確認や誤薬がないよう職員間で薬の確認も徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことができるように個別の対応ができるようにしている。毎月イベントを企画して、楽しみ事の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の外出支援は必ず行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援によりお金を使う機会を作っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状、又毎月はがきにコメントを書いて頂き職員のコメントを添え毎月送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度調整に努めている。季節に応じた貼り絵を入居者様と共に取り組み、季節を感じやすい空間にしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き馴染みの方との会話が出来る 又同じ時間が共有できるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で使用していた物を持参してもらい、利用者様から訴えがあった際は家族に連絡し持参していただくようにしている。掃除もスタッフと一緒にすることにより使いやすい部屋となるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ることを把握しなるべく利用者様に「役割」や「やりがい」を持って頂けるようごはんの盛り付け等の支援をしています		